

働き方改革推進方針における各成果指標の状況

↗ 改善 ↘ 悪化

成果指標	R元	R2	R3	R4	状況
1. 時間外勤務月80時間超の 県立学校教師(教諭)の割合 (各年度11月) ※システムによる把握	25.3%	20.6% ↗	19.1% ↗	18.9% ↗	時間外勤務月80時間超の教師の割合は、 減少傾向
2. 教師自身の学びの実践 (9項目の学びの実践の選択数)	3.67項目	3.13項目 ↘	3.42項目 ↗	3.54項目 ↗	令和2年度は、コロナ禍による 研修等の中止・延期等の影響により 全体の選択数は減少したが、 令和3年度以降は増加(回復)傾向
3. 教職員の働きがい (ワーク・エンゲイジメント)	28.83点	28.35点 ↘	28.64点 ↗	28.26点 ↘	日本(民間企業)の平均(23.58点(※1)) 以上の水準をキープ
4. 教職員の抑うつ傾向 (メンタルヘルス)	5.36点	5.57点 ↘	5.62点 ↘	5.79点 ↘	抑うつ傾向は、年々悪化傾向 (※2) ※5点以上がリスク群、 10点以上がハイリスク群
5. 教職員の主観的幸福感 (ワーク・ライフ・バランス) 10点満点	6.06点	6.06点 →	6.09点 ↗	6.05点 ↘	日本の平均(5.76点(※3))以上 の水準をキープ

- ※1:リクルートマネジメントソリューションズ(2019)「ワーク・エンゲイジメントに関する実態調査(N=624)」で平均値23.58点
質問は、「仕事をしていると活力がみなぎるように感じる」等9項目について、どのくらいの頻度で感じているか、
「0:全くない～6:いつも感じる」の7段階で問うもの
- ※2:質問は、過去1カ月のこころの状態(6項目)を「0:全くない～4:いつも」の5段階で問うもの
- ※3:内閣府(2022)「満足度・生活の質に関する調査報告書」で平均値5.76点
質問は、直近1カ月の状況を「0:最高に不幸～10:最高に幸福」までの11段階で問うもの